

BUSINESS REPORT

JSW 日本製鋼所

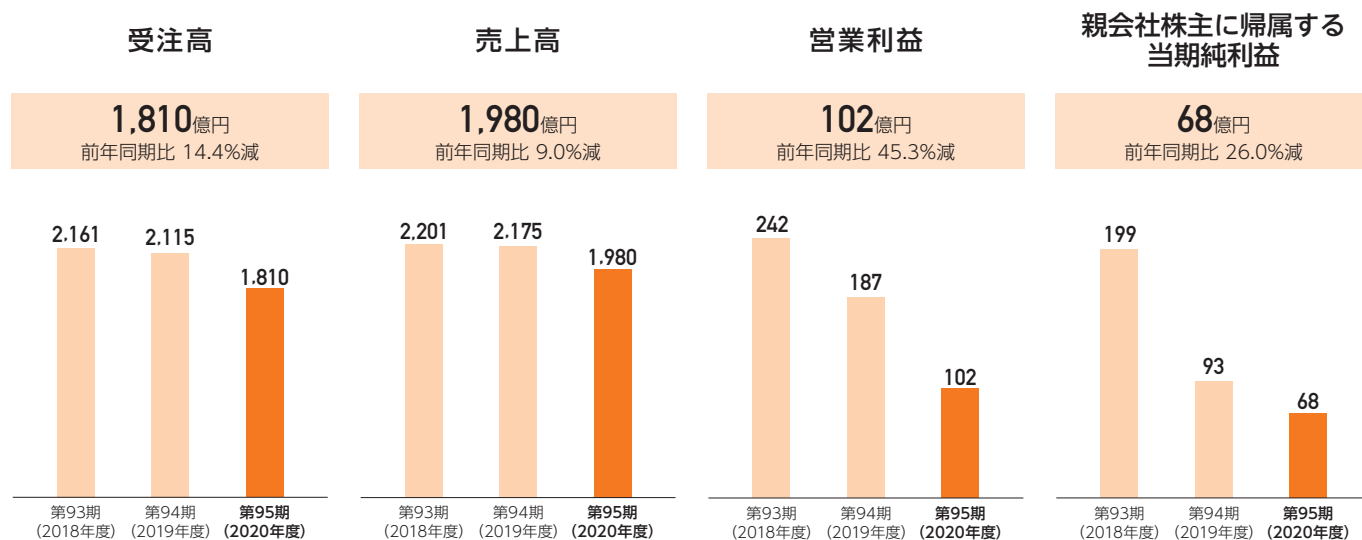
第95期 報告書 2020年4月1日 ▶ 2021年3月31日

証券コード：5631

独創技術で変化を創り出し
社会の発展に貢献する企業



連結業績ハイライト (単位：億円)



決算のポイント

当期の業績

当社グループにおける当期の業績につきましては、受注高は、産業機械事業及び素形材・エンジニアリング事業が共に減少し、1,810億85百万円（前年同期比14.4%減）となりました。売上高は、産業機械事業及び素形材・エンジニアリング事業が共に減少し、1,980億41百万円（前年同期比9.0%減）となりました。損益面では、営業利益は102億26百万円（前年同期比45.3%減）、経常利益は107億24百万円（前年同期比46.1%減）、親会社株主に帰属する当期純利益は68億93百万円（前年同期比26.0%減）となりました。

次期業績見通し

2022年3月期の連結業績見通しにつきましては、受注高2,540億円、売上高2,260億円、営業利益160億円、経常利益160億円、親会社株主に帰属する当期純利益110億円を予想しております。

当期の配当、 配当方針の変更・ 次期の配当

当期の期末配当につきましては、1株当たり17.5円といたします。これにより、中間期末の配当17.5円と合わせた年間配当は、1株につき35円となります。

なお、当社は2021年5月10日開催の取締役会において、配当方針を変更することを決議いたしました。株主の皆様への利益還元をより明確にするため、本年4月よりスタートいたしました新たな中期経営計画「JGP2025」期間中は、「連結配当性向30%以上を目標としたうえで、DOE（連結株主資本配当率）2%を下限に配当を実施する」ことといたします。次期の配当につきましては、変更後の配当方針を適用し、1株当たり中間配当22.5円、期末配当22.5円の年間配当45円を予定しております。

※ DOE（連結株主資本配当率）= 年間配当総額 ÷ 連結株主資本 × 100（%）

株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

この度の新型コロナウイルスに罹患された皆様にご心よりお見舞い申し上げますとともに、医療従事者の皆様のご尽力に感謝申し上げます。

さて、「ビジネスレポート」として当社の第95期報告書（2020年4月1日～2021年3月31日）をお届けいたします。株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2021年6月

代表取締役社長 宮内 直孝



各事業の概況

産業機械事業

売上高構成比 **79.0%**

● 業績のポイント

受注高は、成形機は増加したものの、樹脂製造・加工機械で大型案件の受注が次期にずれ込んだことから、1,452億78百万円（前年同期比10.7%減）となりました。

売上高は、樹脂製造・加工機械及び成形機が共に減少したことから、1,563億92百万円（前年同期比8.8%減）となりました。

営業利益は、売上高の減少、棚卸資産評価損の計上などにより、139億58百万円（前年同期比27.6%減）となりました。

素形材・エンジニアリング事業

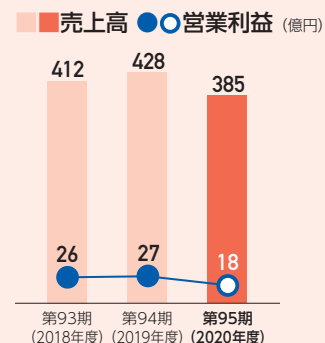
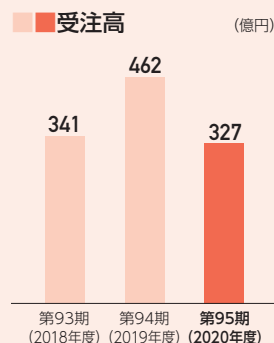
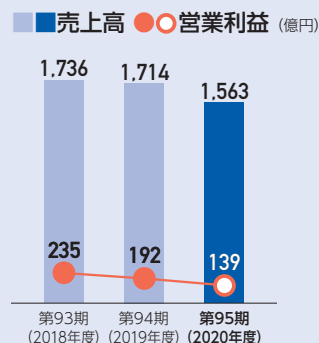
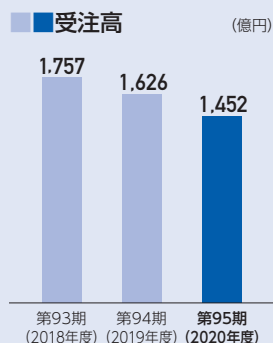
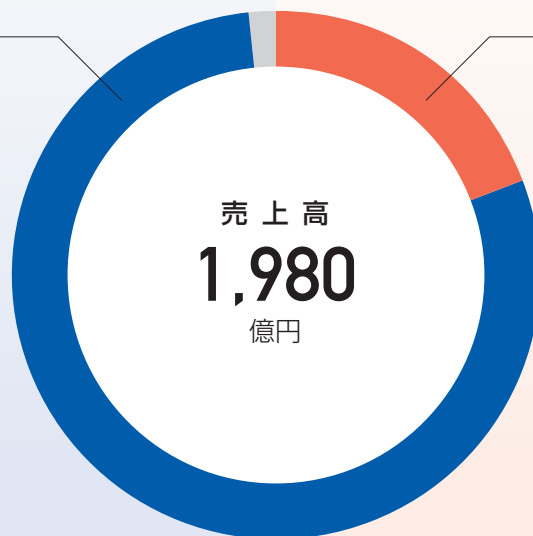
売上高構成比 **19.4%**

● 業績のポイント

受注高は、クラッド鋼板・鋼管が減少したことから、327億60百万円（前年同期比29.1%減）となりました。

売上高は、鍛鍛鋼製品が増加したことから、385億17百万円（前年同期比10.2%減）となりました。

営業利益は、売上高の減少、固定費の増加などにより、18億73百万円（前年同期比32.8%減）となりました。



※ 当期より、2020年4月1日付で実施した当社グループ内の組織再編に伴い、従来の「素形材・エネルギー事業」を「素形材・エンジニアリング事業」に名称変更しております。また、従来「その他事業」に含まれていた風力発電機器の保守サービスを「素形材・エンジニアリング事業」に変更しております。上記の前年同期の実績値及び前年同期比較は変更後のセグメント区分に組み替えた数値で比較しております。

特集：新中期経営計画「JGP2025」スタート

中期経営計画「JGP2020」の振り返り

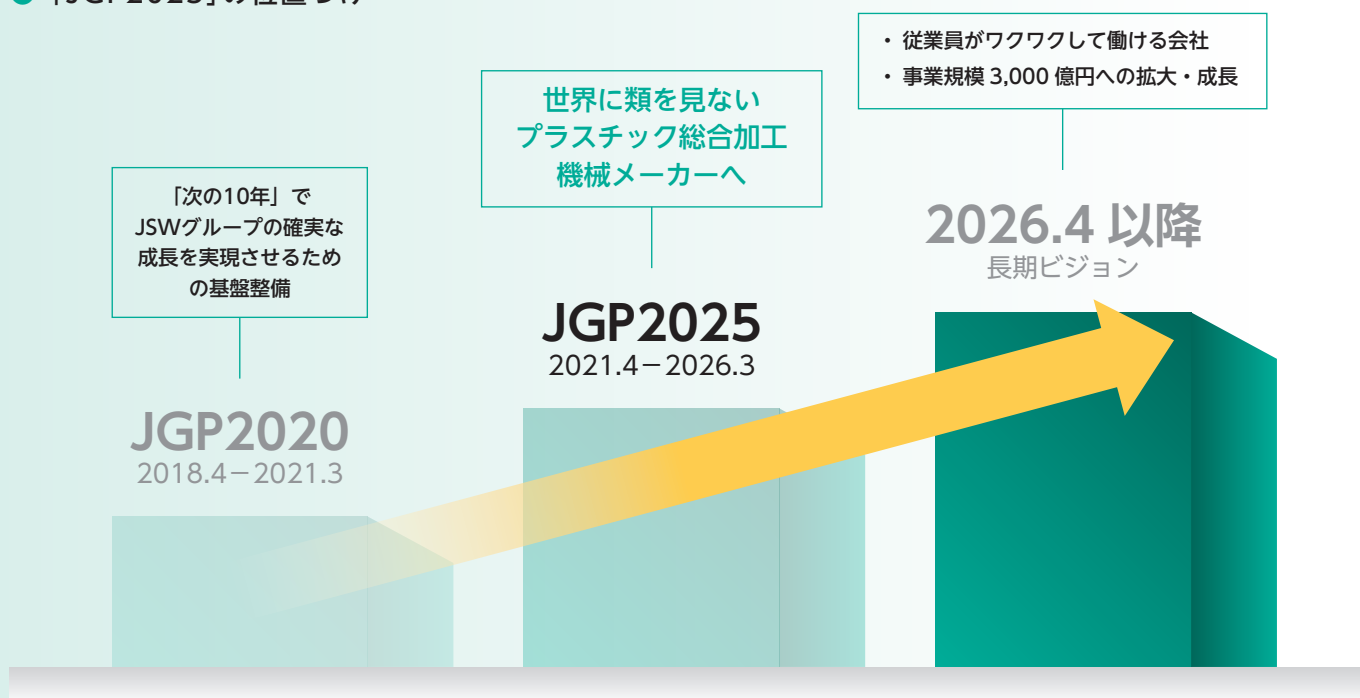
当社グループは、2021年3月期を最終年度とする3カ年の中期経営計画「JGP2020」において、「産業機械で『成長』、素形材・エンジニアリングで『新生』」をコンセプトとして掲げ、① 経営資源の最適化とアライアンスの強化、② アフターサービス（ストック型ビジネス）の強化、③ 新事業探索、育成の活性化の3つを基本方針として事業活動を推進してまいりました。

| 1 | 経営資源の最適化とアライアンスの強化 | 継続課題 |
|----|--|--|
| 成果 | <ul style="list-style-type: none">プラスチック加工機械コンプレックスの拡大 (株)ジーエムエンジニアリングの子会社化/ニチユマシナリー(株)・(株)名機製作所の吸収合併素形材・エンジニアリング事業を分社（日本製鋼所M&E(株)設立）月島機械(株)との協業開始JX金属(株)との合併会社設立 | |
| 2 | アフターサービス（ストック型ビジネス）の強化 | |
| 成果 | <ul style="list-style-type: none">日本、欧州に部品センターを開設サービス専用工場の建設リモートメンテナンスの運用開始 | |
| 3 | 新事業探索、育成の活性化 | <ul style="list-style-type: none">プラスチック加工機械コンプレックス化の更なる推進現有製品の競争力強化プラスチック加工機械に続く新たな中核事業の創出素形材・エンジニアリング事業の継続的な利益の確保新事業の早期収益事業化 |
| 成果 | <ul style="list-style-type: none">水素関連ビジネスの事業化、日本製鋼所M&E(株)への移管フォトニクス、複合材料、金属材料の3つの事業分野への絞り込みを決定 | |

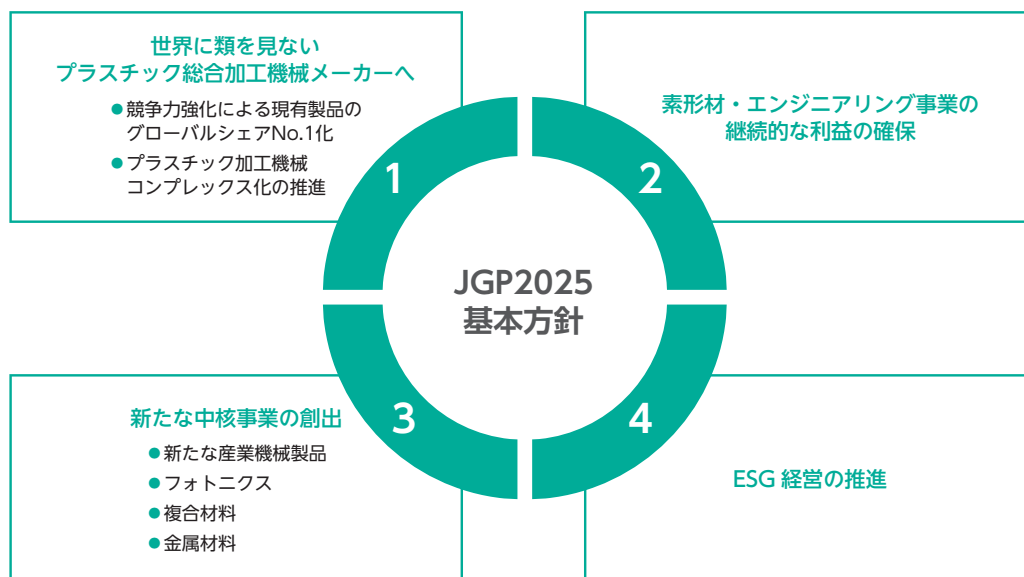
新中期経営計画「JGP2025」の概要

当社グループは、長期ビジョンとして「従業員がワクワクして働ける会社」、「事業規模3,000億円への拡大・成長」を掲げ、これを実現するために2022年3月期を初年度とする5カ年の中期経営計画「JGP2025」をスタートさせました。

● 「JGP2025」の位置づけ



● 4つの基本方針



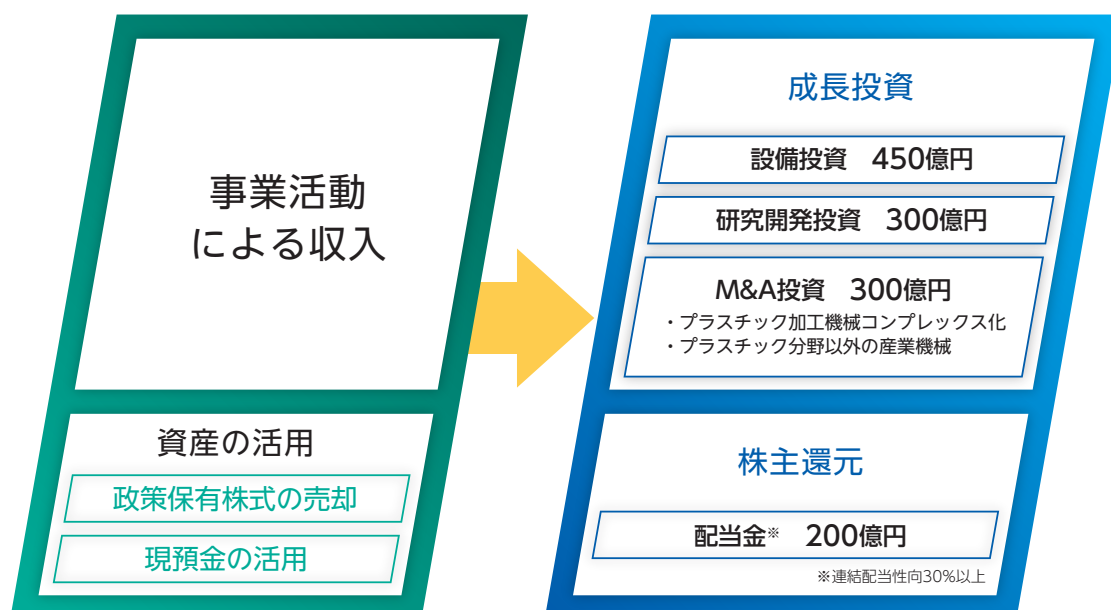
● 数値目標

| | | | |
|--------------------------|-------------------------------|------------------------------|-----------------------------|
| 2025年度 2026/3期 | 売上高 2,700 億円 | 営業利益 270 億円 | ROE 10.0 % |
|--------------------------|-------------------------------|------------------------------|-----------------------------|

| | 2019年度 実績 | 2020年度 実績 | 2023年度 計画 | 2025年度 計画 | 2019年度比 |
|----------|--------------|--------------|--------------|----------------|---------|
| 売上高 | 2,175億円 | 1,980億円 | 2,500億円 | 2,700億円 | + 24% |
| 営業利益 | 187億円 | 102億円 | 200億円 | 270億円 | + 44% |
| 売上高営業利益率 | 8.6% | 5.2% | 8.0% | 10.0% | +1.4PP |
| ROE | 7.2% | 5.1% | 8.5% | 10.0% | + 2.8PP |

● 財務戦略

持続的な企業価値向上を目的に、成長投資と株主還元の適切なバランスを確保



※ 新中期経営計画「JGP2025」の詳細は当社ホームページのIRライブラリー (<https://www.jsw.co.jp/ja/ir/library/presentation.html>) をご参照ください。

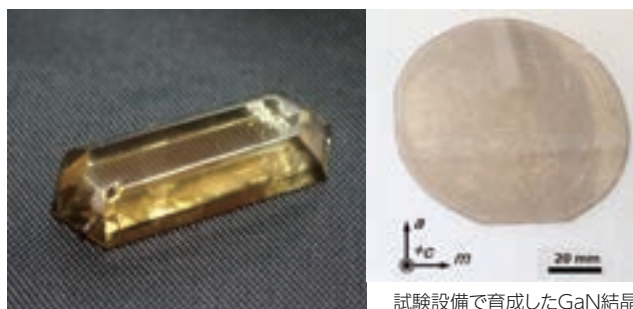
世界最大級の窒化ガリウム（GaN）基板製造設備の竣工

当社は三菱ケミカル株式会社（以下「三菱ケミカル」）と共同で、窒化ガリウム（GaN）単結晶基板の量産設備を、当社連結子会社である日本製鋼所M&E株式会社の室蘭製作所構内に竣工しました。2021年度にかけて量産に向けた実証実験を行い、2022年度初頭からの市場供給開始を目指します。

GaNは高効率で耐久性・省電力性に優れた電子デバイスの実現を可能とする素材です。これまで青色LEDの材料として利用されてきましたが、近年はシリコンに代わる次世代の半導体材料としても注目が集まっています。パワー半導体の素材以外にレーザーや照明、ディスプレイの高出力化・高輝度化、大容量データを瞬時に送受信する次世代高速通信（5G）やポスト5G通信の実現など様々な用途への応用が期待されており、機器や装置の小型化、消費電力の大幅な抑制による温室効果ガス排出量削減に寄与します。

しかし、不純物の混入を抑えて欠陥や歪みの無い高品質なGaN結晶を量産することが難しく、歩留まりの低さと加工コストの高さが本格的な普及の壁となってきました。

当社は人工水晶製造用の圧力容器を製造しており、グループ子会社では30年にわたり人工水晶を製造してカメラメーカー各社



試験設備で育成したGaN結晶

に光学部品として納入するなど、設備の設計・製造と結晶製造技術の双方で強みを有します。

三菱ケミカルとの間では、透明で結晶欠陥が極めて少ないGaN基板の低コスト製造技術の共同開発に成功しており、試験設備で均一な結晶成長も確認しました。この度新たに導入した設備により、量産に向けた実証実験を経て高品質なGaN基板の安定供給に向けた体制構築を図ります。

なお、本成果の一部は、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の助成事業の結果得られたものです。



製品紹介 vol.4

JSWグループの製品と社会とのつながり

二軸混練押出機

当社は1950年に単軸押出機の初の国産化に成功、その後1979年には二軸混練押出機“TEX”（=Twin Screw Extruder）の製造・販売を開始し、これまで累計2,500台を超えるTEXを出荷してきました。

JSW製品の特長

TEXは、投入した原料や添加剤を二本のスクリーで混ぜ合わせ・練り上げ・押し出す機械です。揮発成分の分離（脱揮）や脱水、ポリウレタン重合等の反応のほか、バイオマス原料・食品の製造など幅広い用途に使用されます。

当社は研究開発用の小型機から化学プラント向け超大型機まで樹脂製造用途で幅広い製品ラインナップを揃えています。素材メーカーとしての知見も活かし、耐摩耗性・耐腐食性を兼ね備えた金属部材を揃えるほか、現在はAI/IoTなどソフトウェアの高度化を進めており、多様化する顧客ニーズに応えます。



世界最大の二軸混練押出機TEX400α

技術応用と循環型社会への貢献

一般家庭で廃棄されるプラスチックには塩素が含まれ、リサイクル時に設備の腐食原因となる塩素の除去が課題となります。TEXを活用すれば、廃プラスチックを加熱・混練して効率よく塩素を分離（脱揮）しながら再生資源の回収が可能です。

また、新たに日本製紙株式会社と共同開発した樹脂複合材料では、同社が開発した木質バイオマス素材を当社のTEXで樹脂と混練することで、耐熱性・成形性を向上させながら樹脂使用量を5割以上削減、温室効果ガス排出量削減に寄与します。

当社はTEXを応用した食品用押出機も製造しています。大量収穫が容易な大豆など植物性原料を加工して味や食感を再現した「代替肉」が近年注目されており、環境負荷低減のほか、食肉を忌避される方など多様性に配慮した社会にもTEXの技術が役立つと期待されます。



新たに開発した樹脂複合材料と使用例

会社概要 (2021年3月31日現在)

会社の概要

| | |
|-------------|---------------------|
| 創立 | 1907(明治40)年11月1日 |
| 設立 | 1950(昭和25)年12月11日 |
| 資本金 | 197億5871万4020円 |
| 従業員数(就業人員数) | 単体:1,846名 連結:5,442名 |

取締役及び監査役 (2021年6月21日現在)

| | |
|-----------|-------|
| 代表取締役社長 | 宮内直孝 |
| 代表取締役副社長 | 松尾敏夫 |
| 取締役常務執行役員 | 出口淳一郎 |
| 取締役常務執行役員 | 岩本隆志 |
| 取締役常務執行役員 | 菊地宏樹 |
| 取締役執行役員 | 三戸慎吾 |
| 取締役(社外) | 出川定男 |
| 取締役(社外) | 中西義之 |
| 取締役(社外) | 三井久夫 |
| 常勤監査役 | 柴田尚 |
| 常勤監査役 | 西山透 |
| 監査役(社外) | 谷澤文彦 |
| 監査役(社外) | 三澤浩司 |

執行役員(取締役兼務者を除く) (2021年6月21日現在)

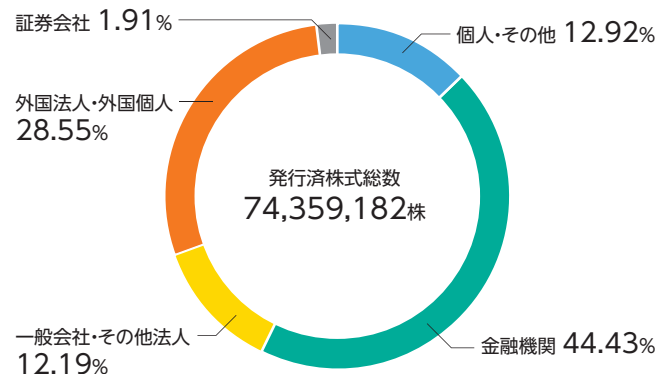
| | |
|--------|------|
| 常務執行役員 | 香川豊彦 |
| 常務執行役員 | 井上茂樹 |
| 執行役員 | 佐藤善隆 |
| 執行役員 | 馬本誠司 |
| 執行役員 | 布下昌司 |
| 執行役員 | 新本武司 |

(注) 当社は、取締役 出川定男氏、中西義之氏及び三井久夫氏並びに監査役 谷澤文彦氏及び三澤浩司氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。

株式の状況

| | |
|----------|--------------|
| 発行可能株式総数 | 200,000,000株 |
| 発行済株式総数 | 74,359,182株 |
| 株主数 | 18,978名 |

所有者別分布状況

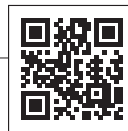


株主メモ

| | |
|----------------------|--|
| 事業年度 | 毎年4月1日から翌年3月31日まで |
| 定時株主総会 | 毎年6月下旬 |
| 基準日 | 定時株主総会 毎年3月31日 期末配当 毎年3月31日 中間配当 毎年9月30日 |
| 株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関 | 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 |
| 郵便物送付先 | 東京都杉並区和泉二丁目8番4号(〒168-0063) 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 |
| (電話照会先) | 電話 0120-782-031(フリーダイヤル) |
| 公告掲載方法 | 電子公告 但し、事故その他やむを得ない事由 によって電子公告による公告を することができない場合は、日本経済新聞 に掲載して行う。 |
| 単元株式数 | 100株 |
| 上場証券取引所 | 東京証券取引所市場第一部 |

ホームページのご案内

当社の企業活動、製品などに関する詳しい情報につきましては、「株式会社日本製鋼所ホームページ」でご覧いただけます。こちらもどうぞご利用ください。▶ <https://www.jsw.co.jp/>



マイナンバーのお届出のお願い

市区町村から通知されたマイナンバーは、株式等の税務関係のお手続きが必要となります。このため、株主様から、お取引の証券会社等へマイナンバーをお届出いただく必要がございます。

- 証券会社の口座で株式を管理・購入・取引されている株主様 ▶ お取引のある証券会社までお問い合わせください。
- 証券会社とのお取引がない株主様 ▶ 三井住友信託銀行 証券代行部 (Tel: 0120-782-031) までお問い合わせください。

JSW 日本製鋼所

〒141-0032

東京都品川区大崎1-11-1 (ゲートシティ大崎 ウエストタワー)

Tel 03-5745-2001(大代表)



この報告書は、環境に配慮した「植物油インキ」を使用しています。